第Ⅳ部門　　年代間の差異を考慮した有名観光地区整備構想に関する実証的研究
－京都市嵐山地区を対象とした年代別余暇意識構造分析を基礎として－

立命館大学　理工学部　正会員　　春名　攻
立命館大学　大学院　　学生員　　萩原　嵩
立命館大学　大学院　　学生員　○柚本　真由美

1. はじめに

余暇環境は、週休 2 日制の導入や余暇に対する意識変化、余暇の目的と活動の内容の変化、等によってニーズの多様化・高度化が生じている。また、近年の団塊世代の定年退職により全体的な高齢化はかなりの程度進行している。一般的に、余暇環境に興味を持ち余暇行動を行う人々の数は増加しており、その中でも高齢者人口の割合が特に多くを占めることが考えられる。一方、余暇行動に出かける場所に関しては、高齢者に配慮した環境が十分に整っていないことが現状である。高齢者は余暇行動に対して、他の年齢層よりも多額の消費をすると考えられるので、観光地域開発の貢献する点も多く、観光開発の成果に影響を与えることが考えられる。多くの都市で、余暇環境やレクリエーション機能の充実が近年期待されているが、都市・地域への魅力を向上させるための一つの方策として、高齢者の余暇環境の向上を図ることも重要である。本研究ではこの点に着目し、高齢者の余暇意識に対応した余暇環境・余暇対象地区整備を計画するための検討を実施した。
即ち、先に様々な年齢層の人々の余暇意識について把握することとしたが、これは高齢者と非高齢者について、それぞれの余暇意識の異なる部分を抽出・比較するためである。今回は、高齢者にとって手軽に訪問することができるような日帰り型の余暇行動に限定して検討を行った。

2. 研究方針

本研究では、始めに様々な年齢層の人々の余暇意識について把握する。これは高齢者と非高齢者についてそれぞれの余暇意識における異なる部分を比較するためである。

今回は、高齢者にとって手軽に訪問することができるような日帰り型の余暇行動に着目して検討を行っていくこととする。

3. 日帰り余暇行動としての訪問対象地区の選定

対象地区の概要を**図-1** に示す。京都市嵐山地区は、JR 嵯峨嵐山駅を中心とする京都市の代表的な観光地であり、京都市内における訪問地の中で 2 番目に訪問客が多い。世界遺産や神社・寺院などの歴史資源が豊富であるとともに、自然資源を多く有している。

嵐山地区には多種多様の観光資源があり、幅広い年齢層が訪問している地区である。また、地区内に複数の観光スポットを有しているため、1 日かけて回遊するスタイルに適している。このような現況から、嵐山地区は幅広い年齢層や、余暇に対する様々な価値観を持つ人々が興味を持ち、訪問していることが考えられる。以上より、本研究のケーススタディとして訪問者の余暇意識に偏りがないと判断できる京都市嵐山地区を選定し、研究を進めることとする。

図-1　京都市嵐山地区

4. 観光地区整備構想の提案

京都市嵐山地区は、多くの人々が訪問しており、大変にぎわう観光地区となっている。平日と休日、オンシーズンとオフシーズンの時期によって訪問客数が大幅に異なり、訪問客の変動が激しい。また、

自家用車を利用する人々が多いので、交通渋滞による道路混雑が発生している。このような問題点をふまえた上で、観光地区整備案を立案し、提案によってどのくらいの人々が休日よりも平日に訪問するのか、自家用車よりも公共交通を利用するのかを検討する。また、提案を導入することによって嵐山地区に対する魅力がどのくらい向上するのかを検討する。

整備構想の検討においては、高齢者と非高齢者に分類して提案し、高齢者と非高齢者との間でどのような差異があるのかを考察するために、アンケート調査において整備内容の評価をしてもらった。観光地区整備構想の提案内容を以下に示す。ただし、(5)、(6)に関しては高齢者限定の提案とする。

(1) 総合案内センターの設置
(2) 地区内を循環するコミュニティバスの導入
(3) 自転車タクシーの導入
(4) 中心部における歩行環境の充実
(5) バリアフリーの充実
(6) 高齢者のための平日限定サービスの実施

5. 主成分分析結果

観光地区整備案を導入した場合の京都市嵐山地区に対する評価と動態について分析し、考察を加える。分析結果を**図-2**に示す。

まず、クラスター分析を行い、質問項目を相関の高い項目同士に簡略化した。次に、主成分分析を用いて属性の組合せを設定し、クラスター分析で簡略化したデータ変量を属性グループ別にインプットし、主成分負荷量を導いた。そして、属性別の余暇に対する潜在意識の分析・抽出を行った。

主成分分析結果(属性別の余暇意識の整理)

	属性グループ	余暇意識
①	非リタイア、子供なし	落ち着いた歴史観光や、昔行った事がある場所を再び訪れる 訪問地に関する情報や質の高さ、写真撮影が行えることを意識せず 時間・精神・経済的な、自分自身に関する事情により余暇行動を行わない
②	非リタイア、子供あり、車のみ利用、30代	歴史観光に飽と興味なし 体験型の観光や買物・飲食を伴う余暇行動に高い魅力 写真撮影・運動・スポーツなど、趣味を伴った活発な行動を希望 移動手段や同行者の存在により、行動の決定が左右される
③	非リタイア、子供あり、車のみ利用、40代	少人数で静かに、ゆったりとした行動に魅力 同伴者や移動手段を気にしない 目的地の情報や混雑の度合いなど、目的地の条件が行動の決定を左右する
④	非リタイア、子供あり、車のみ利用、50代～リタイア前	観光対象への興味・魅力、が「歴史」より「自然」にある 温泉など、休息・リラックスする事を目的に出かける余暇行動に魅力 多人数・賑やかな余暇行動をやや望む 行くための情報や快適性・混雑の度合いなどが行動の決定を左右する
⑤	非リタイア、子供あり、車以外も利用、30・40代	歴史施設の見学や、自然(海・山・川)、動植物園、博物館などの行き先に魅力 買物・飲食や休息・ドライブなどには魅力なし 行動スタイルは全般的に意識せず 移動手段・同行者・当日の天候・快適性が、行動決定に影響される
⑥	非リタイア、子供あり、車以外も利用、50代～リタイア前	訪問対象より、行先での行動を高く意識 少人数で、休息・リラックスする事を目的に出かける余暇行動に魅力の行動を希望 渋滞・混雑といった快適性に関する要素が行動決定に影響
⑦	リタイア、車のみ利用	温泉など、休息・リラックスする事を目的に出かける余暇行動に魅力 ドライブ・買物・食べ歩きなど、手軽な余暇行動に魅力 同伴者や交通手段を強く意識し、自身の健康・体力不安から余暇行動を諦める傾向がある
⑧	リタイア、車以外も利用	温泉など、休息・リラックスする事を目的に出かける余暇行動に魅力 運動やアウトドアなど、大がかりな余暇行動には魅力がない 情報・混雑・当日の天候など、目的地の条件が行動決定に影響

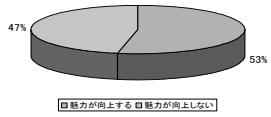
図-2　主成分分析結果

6. 観光地区整備の評価と動態変化に関する考察

高齢者及び非高齢者の被験者データをそれぞれ用いて、重回帰分析を行った。次に、数量化分析(Ⅱ類)を行い、観光地区整備を行った結果、嵐山地区の魅力向上を評価する人がどのくらいいるのかを検討した。本分析で実施した『余暇に対する魅力向上』の結果を**図-3**に示す。また、『余暇行動に出かける日』、その時に『利用する交通手段』に関して分析を行った結果は以下のようであった。即ち、出かける日に関しては「51%が平日に出かける」こと、利用する交通手段に関しては「43%が自家用車から公共交通へ変更する」ことがわかった。また、『余暇に対する魅力向上』に関しては、「53%の人々が魅力が向上する」と考えているという結果が得られた。

観光地整備案導入による動態変化の分析③

「魅力変化」の判別
⇒提案後の魅力変化を判別



《判別分析結果》

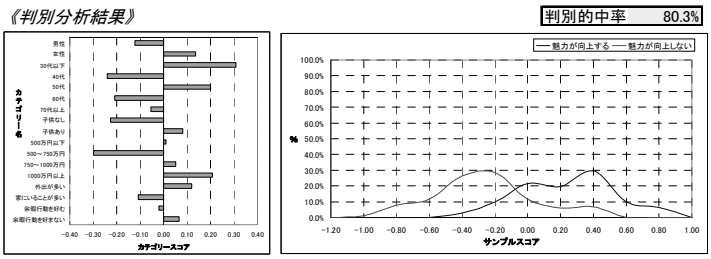


図-3　余暇に対する魅力向上

7. おわりに

本研究では、多様なニーズや価値観を持つ居住世帯に対して、日帰り余暇行動に対する意識を調査し、余暇行動に出かける際に魅力を感じるような観光地区整備案について評価を得た。

今後の課題は、観光地区整備のより具体的な構想案の策定を行う必要がある。今回は高齢者及び非高齢者に分けて、余暇行動の潜在意識の分析を行ったが、余暇行動に対する意識の違いは、単に年代ではなく、ライフステージに起因するものと考えられるため、詳細に属性分類を行った上で、分析を進めていく必要がある。